

アルミ地金 世界需要 年率八%程度の成長維持へ

# LME在庫多いが流通玉は逼迫

橋本健一 郎氏講演

## アルミ原料逼迫の可能性①

リーマンショックにより世界経済は一〇〇年に一度の危機に陥り、各国は協調で景気回復に乗り出すこととなった。それが次の政策である。

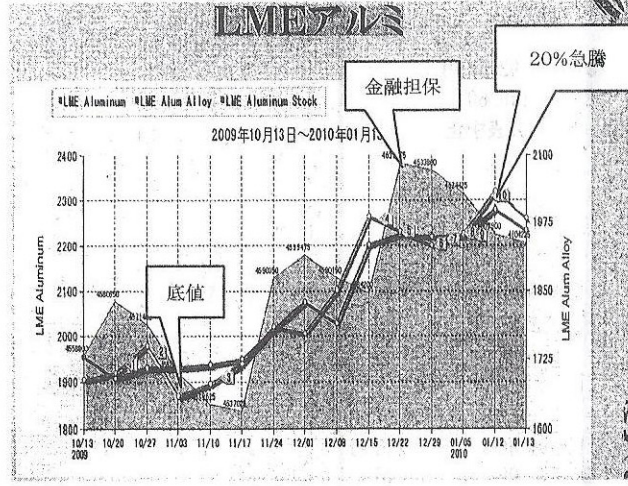
- ① G20で各国の金融緩和と政策協調
- ② 環境事業への減税、補助(HV車・ソーラーパネル・リチウム電池)
- ③ 大規模な景気対策(米国172兆円、中国157兆円)

減税によるハイブリッド車・ソーラーパネルの販売増、金融緩和策による金融安定の確保などを受けて、世界経済はハーフエコノミーから前年比で八割程度まで回復した。

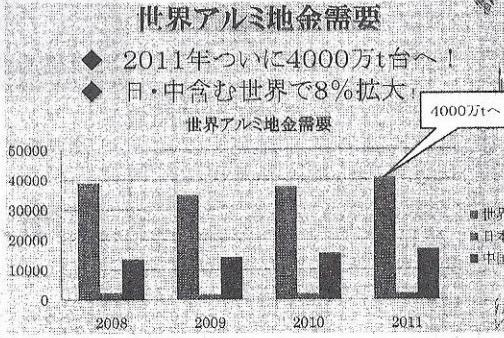
また金融緩和策やそれに伴うドル安により、過剰流動性を帯びた資金が株式市場や商品市場に流入、株価や商品全般が急回復した。景気回復が進む中で二〇一〇年のアルミの展望は？ここでのポイントは三つである。

- A 新地金(LME)が二〇%急騰！
- B アルミ地金需要は四、〇〇〇万トンへ！
- C 原料のほとんどが輸出へ！

まずLMEだが、プライスに関しては昨年十一月五日の底値一、八八五ドル(CASH)から、中国の資源備蓄、世界的な金融緩和策等々を受け、現在約二〇%程度上昇している。危惧されている歴史的水準の在庫に関しては、三菱商事軽金属販売のレポートによれば、三分の二がトレーダー・金融機関の担保になっており、流通玉はひっ迫している。



- 次にアルミ世界需要であるが、ここでのポイントは二つ。
- ① 二〇一二年ついに四、〇〇〇万トン台へ！
- ② 日・中含む世界で八%拡大！



そして世界のアルミ需給バランスは、景気回復・BRICSの成長にともない逼迫し、一一年にはついにほぼバランスするとの予測がなされている。

